

四講

④僧伽と念仏一門徒衆の念仏

- A.わかるとわからない
- B.わかるは二種深信
- C.易行と難信「安物でけっこう」
- D.南無阿弥陀仏は与えられた言葉
- E.二つの恥ずかしい
- F.はじまりとしての浄土真宗
- G.「これからがこれまでを決める」
- H.「孫がナンマンダブツと言ったんだ」

A.わかるとわからない

しかればみ名を称するに、能く衆生の一切の無明を破し、能く衆生の一切の志願を満てたもう（161）

B.わかるは二種深信

「深心」と言うは、すなわちこれ深信の心なり。また二種あり。一つには決定して深く、「自身は現にこれ罪惡生死の凡夫、曠劫より已来、常に没し常に流転して、出離の縁あることなし」と信ず。二つには決定して深く、「かの阿弥陀仏の四十八願は衆生を摂受して、疑いなく慮りなくかの願力に乗じて、定んで往生を得」と信ず。（215）

第一の深信は「決定して自身を深信する、」すなわちこれ自利の信心なり。

第二の深信は「決定してかの願力に乗じて深信する、」すなわちこれ利他の信海なり。

（440）

『観経』には「深心」と説けり。諸機の浅信に対せるがゆえに「深」と言えるなり。

（340）

C.易行と難信「安物でけっこう」

一文不通にして、経釈のゆくじもしらざらんひとの、となえやすからんための名号におわしますゆえに、易行という。（631）

念仏法門は愚智・豪賤を簡ばず、久近・善惡を論ぜず。ただ決誓猛信を取れば、臨終悪相なれども十念に往生す。これすなわち具縛の凡愚・屠沽の下類、刹那に超越する成仏の法なり。「世間甚難信」と謂うべきなり。（238）

「唯」は、ただこのことひとつという。ふたつならぶことをきらうことばなり。
(547)

円融至徳の嘉号は、悪を転じて徳を成す正智、難信金剛の信樂は、疑いを除き証を獲しむる真理なりと。(149)

仏法聞きがたし、今すでに聞く

D.南無阿弥陀仏は与えられた言葉

- ①原理「弥陀成仏のこのかたは」
- ②与えられた言葉「智慧の光明はかりなし」「無量光」
いただいた言葉「真実明」「光暁」
現代的課題に開く【希望を開く】
- ③与えられた言葉「解脱の光輪きわもなし」「無辺際」
いただいた言葉「平等覚」「光触」
現代的課題に開く【出遇いを開く】
- ④与えられた言葉「さわりなし」「無碍光」
いただいた言葉「難思議」
現代的課題に開く【自由を開く】
- ⑤与えられた言葉「ならびなし」「無対光」
いただいた言葉「畢竟依」
現代的課題に開く【解放を開く】
- ⑥与えられた言葉「光炎王仏」
いただいた言葉「大応供」
現代的課題に開く【熱を開く】

三浦綾子

集めたものはやがて消えていく、しかし与えたものはやがて残っていく

E.二つの恥ずかしい

この光明、十方世界を照らすに障碍あることなし。よく十方衆生の無明の黒闇を除く。日月珠光のただ室穴の中の闇を破するがごときにはあらざるなり。(213)

F.はじまりとしての浄土真宗

信は道の元とす、功德の母なり。(230)

前に生まれん者は後を導き、後に生まれん者は前を訪え、連続無窮にして、願わくは
休止せざらしめんと欲す。無辺の生死海を尽くさんがためのゆえなり、と。(401)

梶原敬一

可能性を持ちながら死んでいく

南無阿弥陀仏をとناولれば

この世の利益きわもなし

流転輪回のみきえて

定業中天のぞこりぬ(487)

命濁中天刹那にて

依正二報滅亡し

背正帰邪まさるゆえ

横にあたをぞおこしける(501)

「歓喜」は、うべきことをえてんずと、さきだちて、かねてよろこぶところなり。
(539)

三世兩重の因縁(竹中智秀)

過去→現在

現在→未来